

新聞を通して「対話力」「文章力」を鍛え、 社会で活躍するための力を身に付ける OGATAStyle

新潟市立大形中学校

1 学校の概要

「夢・希望・未来」の教育目標のもと、高みを目指して歩み続ける生徒、学校、地域の実現に向けて、生徒・教職員・地域が協力して取り組んでいる。また、「対話」を重視した教育活動を推進し、本質を求めて「問う」「かかわる」「寄り添う」のキーワードを大切にしながら、学校運営を行っている。そのために、「豊かな心の育成」と「学力向上・授業づくり」を相互作用と位置づけ、様々な場面で「自己決定」を促す働きかけを実践し、互いの違いを受け入れ認め合う「支持的風土」の醸成に向けて、「縦のつながり」を大切にした学校行事の充実と工夫や「生徒の手による学校づくり」の推進に向けた生徒会活動の充実を目指している。

大形地域は、農・工・商業がバランス良く発展した地域であるとともに、古くからの農村地域と振興の商工業地域それぞれの特色を持ち合わせている。近年、住宅地造成がおさまってきたことと少子化が相まって生徒数は減少傾向にある。

2 NIE 実践のねらい

- (1) 新聞を活用した哲学的な対話を通して、誰かと対話することの楽しさを知り、相手を受け止め、自分が受け入れられているという実感を味わう。
【学びに向かう人間性】
- (2) 自分たちで「問い」を生み出し、答えのない「問い」に対して、新聞記事を活用しながら粘り強く考える力を育成する。
【思考力・判断力・表現力】
- (3) 新聞記事ができるまでの過程を知り、見出しや構成を工夫しながら1枚の「はがき新聞」にまとめるデザイン力を身に付ける。
【知識・技能】

3 本年度実践概要（7つのAction）

大形中学校では、次の7つのActionを全職員で行うことで、新聞を通して「文章力」「対話力」を鍛え、社会で活躍できる力の育成を行っていく。

★Action I ★ 各教科学習での新聞活用～新聞テーマ～

- (1) 授業展開を「自分の考えをもつ場面」「自分の考えを伝える場面」「もう一度自分の考えを整理する場面」の3つに分け、どの場面で新聞を活用することで、より深い学びへと導くことができるかを、実践を通して検証する。
- (2) 新聞記事を読み、記事から問いを導くための手立てとして、「対話を促進していくための7つの質問」を大形中全学年全教科領域で共通に大切にして学習を進める。

＜対話を促進し深めていくための7つの質問＞

- ① 意味の明確化 ・ どのような意味？ ・ どのようなときにこの言葉を使うの？
- ② 理由 ・ なぜそう思うの？ ・ そう思う理由はあるかな？
- ③ 証拠 ・ たとえば？ ・ 何か具体例は思いつく？
・ そう言える証拠となるものはあるの？
- ④ 真偽 ・ それってホント？
・ どうやったらそれが本当だと言えると思う？
- ⑤ 一般化／反例 ・ いつでもそうかな？
・ それはいつも当てはまることかな？
・ 当てはまらない例はないかな？
- ⑥ 前提 ・ この意見の根っこにはどんな考えがある？
・ どうやってその考えにたどり着いたの？
・ その考えに何か前提となっていることはないかな？
- ⑦ 推論・含意 ・ もしもそうだと、どういうことになる？
・ そういうふうに考えたとすると、最後はどうなるだろう？

参考資料：特定非営利活動法人子ども哲学おとな哲学アーダコーダ著

- (3) 各場面での新聞活用の有効性について、活動後にアンケートをとり、研推で分析・評価する。
- (4) 年2回、「校内NIE推進委員会」を開き、次のNIE実践への足掛かりを作り、アンケートの結果は全職員がいつでも閲覧できるようにする。

★ActionⅡ★ 学級活動での新聞を身近に感じ取れる学習～「学力を高める新聞遊び」の活用実践～

- (1) 全学級で、学年の発達段階に応じて、意図的計画的に、新聞を身近に感じ取れる学習を行う。

	実施日	ね ら い	内 容
①	5月21日（火）	・文章構成をとらえる力を高める。	「の」の字リレー
②	7月1日（月）	・多くの言葉に触れさせ、語彙力を高める。	新聞しりとり
③	7月9日（火）	・要約力、表現力、デザイン力などの能力を養う。	「広い」記事 「狭い」記事
④	11月18日（月）	・子どもの興味、関心を高め、知識を広げたり、多面的、多角的な見方に触れる。	新聞まわし読み
⑤	11月19日・20日	・新聞から哲学対話のテーマを見つけて、対話しよう。	
⑥	12月17日（火）	・漢字が実生活にどのように使われているか推測し、漢字への関心とセンスを高める。	漢字探偵
⑦	朝の会又は帰りの会（11月）	・自分が興味ある記事についてまとめることを通して、表現する力や発表する力を養う。	1分新聞スピーチ （5W1H）
⑧	7月4日（木） （出前授業）	・新聞製作や新聞の意義について深く知ろう。	新聞製作や新聞の意義
⑨	5月1日（水） （異学年交流）	・論理的思考力や文章構成力を高める。	4コマまんが

★ActionⅢ★ 特別講義「哲学的な対話活動」での新聞活用(校内研修発表会)

★ActionⅣ★ 支持的風土の醸成を育む「はがき新聞」の取組

(1) 年6回以下のように、縦割り班で異学年交流を行う。

- ①完歩大会にむけての交流 ②完歩大会後の交流 ③体育祭に向けての交流
④体育祭後の交流 ⑤合唱コンクールに向けての交流 ⑥合唱コンクール後の交流

- (2) いずれの交流においても、単発ではなく、活動中の交流を踏まえて、活動後に交流を行い、自分の頑張り、他学年の頑張りが実感できるようにする。また、②、④、⑥の交流では、「はがき新聞」にまとめ、自分の「はがき新聞」の内容について説明し、同じグループのメンバーからコメントをもらう活動を通して、自分の頑張りを認めてもらった実感を味わうことができる。
- (3) 特別活動担当、生徒会担当と協力して活動を行う。

★ActionⅤ★ 校内NIE推進委員会を中心に職員同士での新聞の活用の実践紹介・記事紹介

- (1) 他教科で新聞を活用して授業をする場合は、全体で共有できるように内容を職員に知らせる。

(実践例)

- ・新聞記事を読んで、要約し、自分の考えをまとめる新聞レポート（社会）
- ・新聞から興味がある記事を選び、短学活で行う1分間スピーチ（特活）
- ・長期休業中に47都道府県の新聞記事を探す自分日本旅（特活）
- ・国際理解に関する記事の掲示（国際理解教育）

★ActionⅥ★ 図書館司書と連携した新聞記事の掲示および閲覧コーナーの設置

- (1) 新聞は各教室の廊下に、担当の生徒が毎日掲示し、1週間分の新聞がいつでも手に取って試みることができる。
- (2) 図書館には、新聞閲覧台が2つあり、じっくり読むことができる。
- (3) 小学生朝日新聞を図書館ではなく、生徒が見やすいように、生徒玄関に掲示している。
- (4) 新聞の長期保存、管理を連携して行う。



★ActionⅦ★ 新聞活用の成果を生徒・保護者・地域に伝える取組

- (1) 生徒玄関前の掲示（各活動後に更新）
- (2) 学年便りなどへの掲載（地域の回覧版で配布、一斉配信で各家庭へ配布）



大形中に関する新潟日報の記事掲示

4 実践例

<★ActionⅡ★>について

5月21日哲学トーキング (NIE編) 「の」の字リレー

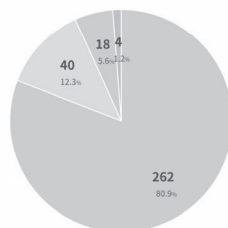
- ・新聞っていろんなことが書いてありますね！
- ・みんなと協力するって楽しいですね！



OHGATA Junior High School

[4] 新聞を読んでいますか？

棒グラフ 円グラフ



- ほとんど又は全く読まない
- 月に1~3回程度
- 週に1~3回程度
- ほぼ毎日

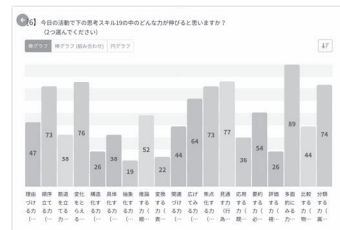
新聞にはいろんな情報が1枚の紙に書いてあり、それを見れば分かるところが凄いなあと思いました。探しきれない情報も書かれていると思うのでじっくり読んでみたいと思いました。

新聞をあまり読んだことがなかったけど、今日の活動をやっている間に気になる記事があったので、見てみたくなりました。今日の活動で、国語の能力が少し身についた気がしました。

生徒の感想・アンケート結果

自分の時はなかなか落ち着いてできなかったけど、他の人がやっているときは、意外と「の」だけを見つけることができたので、少し悔しかった。でも、楽しかったです。決まりを見つけていた人もいたのすごいなあと思いました。

新聞から「の」の字を見つけることは力もつくし、楽しんで取り組むことができたので良かったです。「の」だけを探すよりも文章を読みながらやった方が力がつくのかなと思いました。

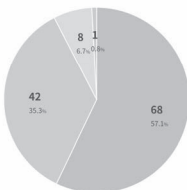


毎回、アンケートを実施し、感想を掲示した。生徒の感想は、遊びの中からも「新聞の良さ」や「新聞の役割」「新聞の構成」などについての自分の気づきが表現されていた。

<★ActionⅢ★>について

Q2 新聞を活用した「問い」の生み出しはどうでしたか？

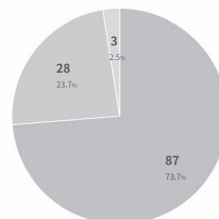
棒グラフ 円グラフ



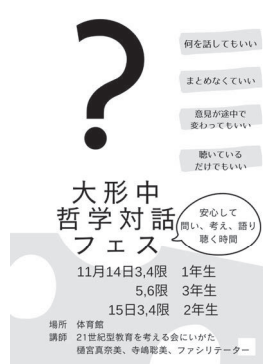
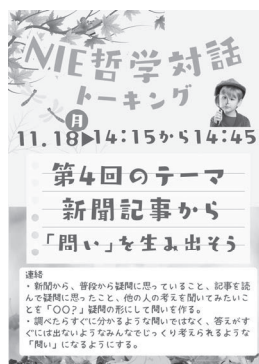
- とても良かった
- 良かった
- あまり良くなかった
- 良くなかった

Q4 哲学対話フェスでは、相手の話をじっくり聞いたり、自分の意見を発表したりすることができましたか？

棒グラフ 円グラフ



- とても良くできた
- 良くできた
- あまりできなかった
- できなかった



<生徒の感想>

- ・ 新聞から話題を拾ったのでいつもより早く対話に入れた。3回目でみんなが慣れ始めたから、話題の深まり感が良くて面白かった。ファシリテーターの人もぼんぼん問いを発展させてくれたので、自分の意見が話しやすく、みんなが一つの問いに集中して考えている姿がとても印象的だった。
- ・ 新聞で問いを見つけ出すことは、日常に問いを生み出す力になると思った。
- ・ いつもやっている問いをいつもとは違う自分で考えるのではなく、新聞から探すことで何が起きているのかも知れたし、新しい疑問や知識が増えるので新聞を使って哲学対話をするのは良いことだなと思った。また、新聞の中でも自分が考えた問いだけでなく、グループで共有するので、そこからさらに自分が思いつかないような問いも出てきて面白かった。深く考えていく中で、始めより自分の疑問が増えたのでよかった。

<協議会の内容>

◆新聞を活用した「問い」の生み出しは有効だったか？

<良かった点>

- ・ 自分が読んだ記事について心から疑問に思ったことを話せた人や班は、話が続いていて自分ごとになっている。
- ・ 一般化することで、他の質問と繋がることもあった。
- ・ 「問い」が具体的で良かった。社会に目が向けられる活動として良い。
- ・ 新聞の内容が多岐に渡るので、自由に話題が広がった。
- ・ 新聞から読み取った疑問を自分たちが話しやすい「問い」に置き換えていた。

<改善点>

- ・ どんな記事を読んでその問いが生まれたのかわからなかった。
- ・ 社会的話題について話すのが難しそうだった。純粋な自分の疑問から離れてしまったため、生徒が乗るまでに時間がかかった。
- ・ 自分が出した問いが変わってしまうことに抵抗がある生徒もいた。

◆来年度に向けて、授業で新聞を活用してみたいことは何か？

- ・ 新聞を読む機会をもっと増やしてもよい。→じっくり内容を見ることで社会で何が起きているのかを知ることができる。
- ・ スクラップ集めのような形で記事を集めたり、気になった記事を書き出して、廊下などに掲示する。→はがき新聞の見出しの書き方の参考にもなる。
- ・ Show & Tell という英語による「聞く」力と「話す」力を身に付けるための学習方法があるので、自分が選んだ写真や記事を全体に見せて説明する。
- ・ 「の」の字リレーなどは、特別支援学級でも盛り上がって、ゲーム感覚でできる。
- ・ 教科として
 - 社会：どんな目的にでも活用できる。
 - 学活：気になった記事の概要と感想を述べる。
4コマ漫画の並べ替えなどをレクでする。
 - 英語：読んだ記事の5W1Hを書く・話す。
 - 総合：新聞から、SDGsに関する記事を抜き出す。
 - 音楽：アーティストの記事から、この人の演奏や曲を聴く。

<★Action V★>について



5 成果

- ・ NIE を通して、生徒の対話力・文章力が向上するように意識している。
(職員) <前期：70%>→<後期：73.1%>
- ・ NIE を通して、生徒の対話力・文章力を鍛えることができた。
(生徒) <前期：84%>→<後期：77%>

大形中学校では、NIE 活動の 1 年目の取り組みとして、現在教育課程の中に位置づけられた学習を、新聞を活用することでさらに生徒の知識が広がり、考えを深めることに重点をおいて取り組んだ。1 つ目は、「哲学対話フェス」の「問い」出しを新聞の記事から行った。新聞記事の内容は具体的なものであるが、外部講師、ファシリテーターのコーディネートにより、「一般化」して対話をすることにした。職員の感想との違いはあるが、生徒の感想は、新聞を活用することで、今まで以上の対話ができたと肯定的な意見が多かった。2 つ目は、出前授業から「はがき新聞」の見出しの付け方や新聞の構成、役割などを学んだ。「はがき新聞」は行事ごとに「自分の頑張り」「仲間の頑張り」「他の人のはがき新聞を読んだ感想」で作成しているが、Onlyone の「見出し」を付け、読んでみたいなと思ってもらえるはがき新聞を目指した。

どの活動も NIE の取り組みをきっかけに、今の活動に目を向け、生徒にとってさらに良いものになるように考え、取り組んだ。また、全職員が NIE の活動に参加し、来年度に向けてのアイデアを出し合い、話し合うことができた。7 月のアンケートでは、自宅に新聞がない生徒の割合は 44%、新聞を読んでいない生徒の割合は 49.7%であった。このような現状を把握し、来年度も、生徒にとって新聞が身近なものになるような取り組みをしていきたい。

(鈴木 昌子)